

CASBEE[®]-建築(新築)

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2021年SDGs対応版_追補版 ■使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2021SDGs(v2.3.2)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	北4西3地区第一種市街地再開発事業(北棟)新築工事	階数	地下7F、地上9F
建設地	北海道札幌市中央区北四条西三丁目4番	構造	S造
用途地域	商業地域	平均居住人員	8,949 人
地域区分	2地域	年間使用時間	4,928 時間/年(想定値)
建物用途	物販店,飲食店,工場,	評価の段階	基本設計段階評価
竣工年	2028年7月 予定	評価の実施日	2025年1月29日
敷地面積	5,328 m ²	作成者	鹿島建設株式会社
建築面積	4,814 m ²	確認日	2025年1月29日
延床面積	74,508 m ²	確認者	鹿島建設株式会社

2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.6

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B-: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値

②建築物の取組み

③上記+②以外のオンサイト手法

④上記+オフサイト手法

0 46 92 138 184 230 (kg-CO₂/年・m²)

100% 76% 76% 76%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

Q2 サービス性能

Q1 室内環境

Q3 室外環境(敷地内)

LR1 エネルギー

LR2 資源・マテリアル

LR3 敷地外環境

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質

Q1 室内環境

Q1のスコア= 3.2

音環境

温熱環境

光・視環境

空気質環境

1.0

3.2

3.8

3.9

Q2 サービス性能

Q2のスコア= 3.6

機能性

耐用性

対応性

3.6

3.6

3.6

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア= 4.0

生物環境

まちなみ

地域性・

4.0

4.0

4.0

LR 環境負荷低減性

LR1 エネルギー

LR1のスコア= 3.1

建物外皮の熱負荷

自然エネルギー

設備システ

効率的

5.0

3.0

2.7

2.5

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア= 4.1

水資源

非再生材料の使用削減

汚染物質回避

4.2

4.3

3.4

LR3 敷地外環境

LR3のスコア= 3.1

地球温暖化への配慮

地域環境への配慮

周辺環境への配慮

3.9

2.6

2.8

3 設計上の配慮事項		
総合		その他
・交通結節点として各交通機能の利便性を高めるため、地下鉄機能の強化及び各種交通機能の乗り換え動線強化を図る ・国内外から札幌都心への多様な人々の誘因と賑わい・交流の促進に向けて、魅力ある都市景観・都市空間の整備、環境や防災性に配慮した都市機能の集積を行い、札幌の国際競争力強化に資する拠点を形成する。		0
Q1 室内環境	Q2 サービス性能	Q3 室外環境(敷地内)
・外気温度の低い地域特性を踏まえた外気冷房、ナイトパーシスシステムの採用、LED照明の採用により省エネに配慮した計画としている。	・維持管理に配慮した材料を使用している。 ・非常用発電設備の設置等、災害時の設備機器の機能維持を図っている。	・建物位置をセットバックして圧迫感をなくし、建物高さは札幌駅前通りのまちなみの連続性に配慮した計画としている。
LR1 エネルギー	LR2 資源・マテリアル	LR3 敷地外環境
・開口がほぼ無く、断熱性能の高い外壁としている。 ・中央監視/BEMS等により主要な用途別にエネルギー消費量の計測がされており、消費特性の傾向把握・分析が可能としている。	・衛生器具には節水器具を採用し、水資源保護に配慮している。	・付置義務以上の駐車場を確保し、一方通行の前面道路側に入出口を設ける事で、周辺交通の渋滞を避ける配慮をしている。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される